



舟入川は、どこから流れてきているのでしょうか。

②昔のくらしと開発

わたしたちの学校の西側を舟入川が流れています。地図を見ながら、この川について、先生が説明してくれました。

この舟入川は、大昔からある自然にできた川ではなく、昔の人がつくった川です。

この川をさか上ると、物部川にでえます。物部川のこのあたりは、

先生

みんなで、見学と調査の計画をたてて、山田ぜきや物部川合同ぜきと、その用水路について調べてみましょう。



なな

山田ぜきがあったところです。今は、この山田ぜきは、一部を物部川緑地公園（山田ぜき遺構公園）として残し、とりこわされています。

山田ぜきあとの上流には、物部川合同ぜきがあり、ここからは、いくつかの用水路が流れています。

わたしたちは調べたいことと調べ方を表にしてみました。

見学調査の計画

	調べたいこと	調べ方
見学する前	- 舟入川の道すじ、長さ。 - 山田ぜきの場所、長さ、はば、高さなど。 - 山田ぜきから流れている舟入川以外の用水路。 - せきや用水路は、いつ、だれがつくったか。	- 資料で調べる。 - 家の人や先生に聞く。
見学の時	- 用水路の道すじや、ふきんの様子。 - せきのようす。（形、材料、大きさなど） - 昔の人の苦勞したあと。 - 物部川合同ぜきの様子。	- 用水路と山田ぜき、物部川合同ぜきの見学。 - 石碑や立てふだを見る。 - 見学の前に調べていたことをたしかめる。
見学のあと	- せきや用水路をつくったわけ。 - 用水路のつくり方。 - つくった人々の苦勞。農民のくらしと藩の考え。 - 用水路ができたあとの村のかわり方。	- 古い記録や参考書などで調べる。 - 研究している人に聞く。



開発前の香長平野について調べましょ
う。

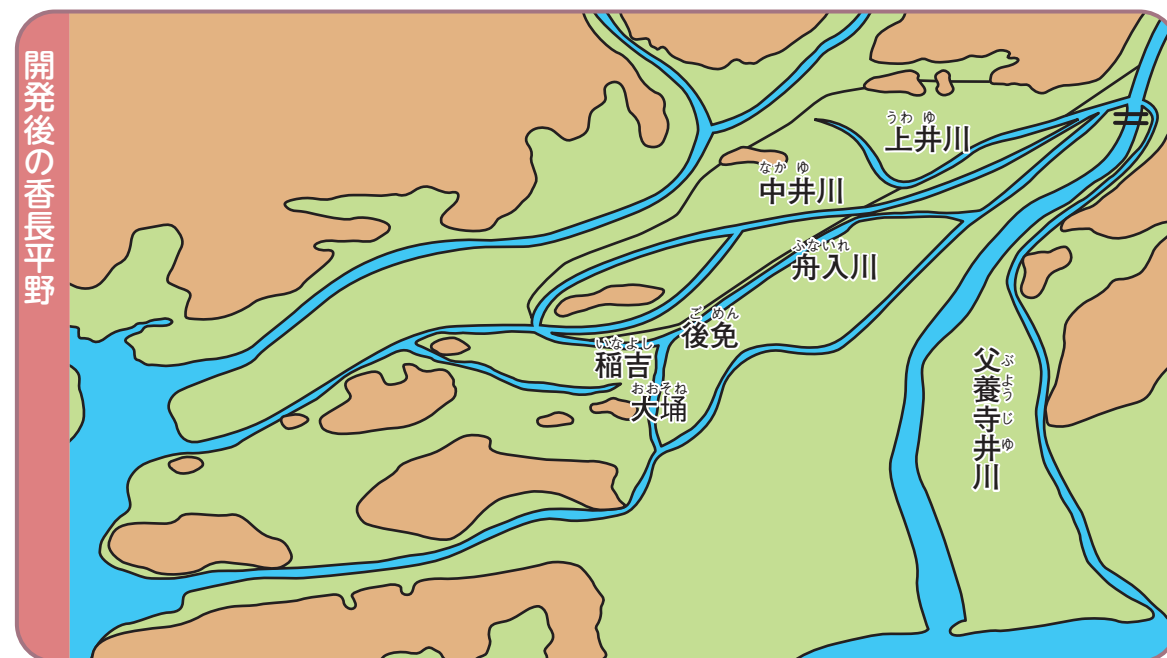
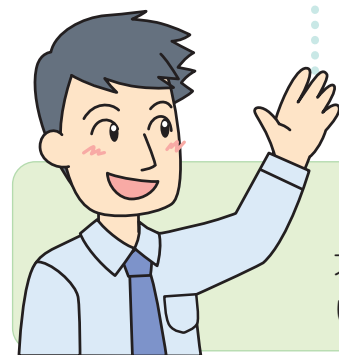


どうして、
水田が少ないの
だろう。

むかしの香長平野　今からおよそ400年
前ごろ、物部川の兩岸には、野市、鏡野、
山田野地などのあれ地が広がっていました。
た。このあれ地は、物部川の水面より、3
mから7mも高いがけの上にはありました。
それで、水をひけないので、たがやしても
畑になるぐらいでした。

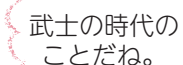
このころの家や田は、稲吉^{いなよし}などのように、
水にめぐまれた低^{ひく}い土地に、集まっていた
ようです。

おおしの ち く おおそね
大篠地区に、「大堀」というところがあります。この
大堀というのは、「大きくうねうねと広がるあれ地」と
いう意味で、昔の土地の様子をあらわしています。



野中兼山の なか けん さんの考え 昔，高知県が土佐藩と さ はんとよばれていたころは，山内氏やまうち しが藩主はん しゅとして土佐の国をおさめていました。

藩の多くの武士がくらしていくには、費用もたくさんいります。その費用は、農民からとりたてる年ぐ米でまかなわれていました。それで、今からおよそ370年前ごろ、藩の執政だった野中兼山は、物部川両岸のあれ地を開いて水田にし、米をつくって、藩を豊かにしようと考えました。



野中兼山の考えについて調べましょう。

ねん まい
● 年ぐ米

今のぜい金にあたるものが年ぐで、
当時は、主にしゅ^{ほん}うかくした米を藩
におさめていた。

● しっせい
執政
そう り だいじん
藩の総理大臣のよ
うな役で、藩の政
治をすすめるうえ
でもっとも責任の
重い役。



そのころは、武士の時代で、武士がいちばん身分の高い人だとされ、農民や商人、職人などすべての人々を支配して、人間の平等など、まったくみとめられない世の中でした。

武士は町に住んで、藩の政治をし、農民は村に住んで、農業をするのが役目とされていました。



野中兼山肖像画

また、そのころ、川は、材木などの大きな荷物を運ぶのに、だいじな役わりをしていました。そこで野中兼山は、物部川と浦戸湾をつなぐ川をつくることも考えました。

5



とりにわされる前の山田せき
一九七〇(昭和45)年ごろ



山田せきの工事の様子(想図)

やま だ かい せつ 山田ぜきの工事の様子(解説)

- ① くらいの高いさむらい——高知のお城から、工事がどのくらい進んでいるかを見にきた、野中兼山のようなさむらいです。
- ② 工事を指図するさむらい——もとは農民でしたが、用水路やていぼうなどをつくる技術をもって、いたので、郷士という位のさむらいにとりたてられた、一木権兵衛のような人です。今、お城からきたさむらいに、工事がうまくはかどっているかどうかを説明しているところです。
- ③ 牛わく——せきをつくる場所より少し上流に、松の太い木三本を組み合わせておきます。このわくに土砂がたまって、川の流れをゆるめます。そこで、この下流にせきをつくり始めます。せきができると、この牛わくはとりはずしてしまいます。
- ④ こばんわく——一番上流の太い木の一列につくったわくです。これは松の丸太で、鳥をかうときのこばんのように組んでつくりました。上流からきた強い水の流れにもこわれないうぶなわくをつくったのです。
- ⑤ 土台わく——ひごのないこばんのように、松の木を直方体に組んだわくです。この土台わくが、何列か下流のほうに続きます。
- ⑥ かたこばん——一番下手につくるせきをいいます。これは、下流の水に面したところだけ、こばんのわくのようにしたものです。それは、水のうずによって、せきがこわれるのをふせぐためにじょうぶにつくったものです。
- ⑦ 四つわく——川の深くて流れの速いところには、松の木を組み合わせたわくの先を切りとがらせて、川底にしずめました。
- ⑧ 川夫——四つわくなどをしずめるとき、川の底にもぐって先を切りとがらせた木をゆすりながらうめこみ、安定させます。そのあと、わくの中に、くり石やわり石を入れるのです。流れが速く、深いところですので、失敗も多くなつてへんきけんでした。それに工事は、冬の寒いときにしたので、川夫になった人は、水の冷たさともたかうつらい仕事でした。
- ⑨ わくづくり——わくは、岸で組み立てられ、運んでいきました。わくを水の中におくと、石工が大きなわり石を入れていきます。
- ⑩ 石はこび——川の中にある岩をくだき、大きな石はしゅら（きんま）にのせて、たくさんの人がひっぱりまわします。小さな石は、もっこでかついで運びます。
- ⑪ じゃかご——竹で円筒形のかごをつくり、その中に石をつめます。これは、せきや岸を守るのに使います。
- ⑫ 千本づき——ていぼうは、ねん土や赤土をばうでついてかためました。ていぼう以外に、用水路の底やかべなども、水がもれないように棒や板でたたいてかためたのです。棒の長さは2mくらい、直径は10cmくらいでした。これで土をつきかためるとき、同時に足も上下させ、足の力も加えてかためたそうです。工事場の監督は、しばしば棒のあげ方と同時に、足のあげ方がたりないと注意したそうです。



工事の様子を伝える春野神社(山田ぜきあと右岸)の絵馬

せきの工事 野中兼山は、まず物部川の中流、土佐山田の神母ノ木に山田ぜきをつくりました。このせきは、長さ327m、はば11m、高さは1.5mもありました。材料は、木や石を、小山がいくつもできるほど使っていました。

工事は、1639年にはじめて、26年間もかかりました。そのころは、技術もすすんでいなく、機械もありませんでした。そこで、農民がくわやもっこなどの道具を使って、全部人の力でやらなければならませんでした。大きな岩でも、くわやしょうれん(かなてこ)でほりおこし、何十人もの人が力をあわせて運びました。

たくさんの人が働いているね。

なな

何をひっぱりついているのだろう。

けん

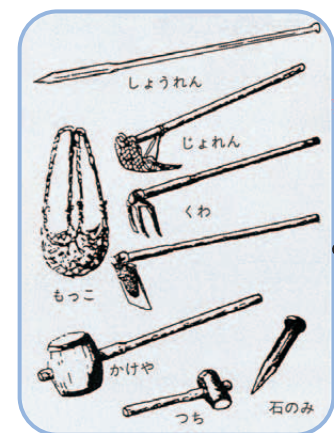
山田ぜきは、どこに、いつ、つくられたか調べましよう。

せきの工事には、どのような苦勞やくふうがあったでしょう。

「山田ぜきの工事の様子」からたくさんのことがわかりそう。

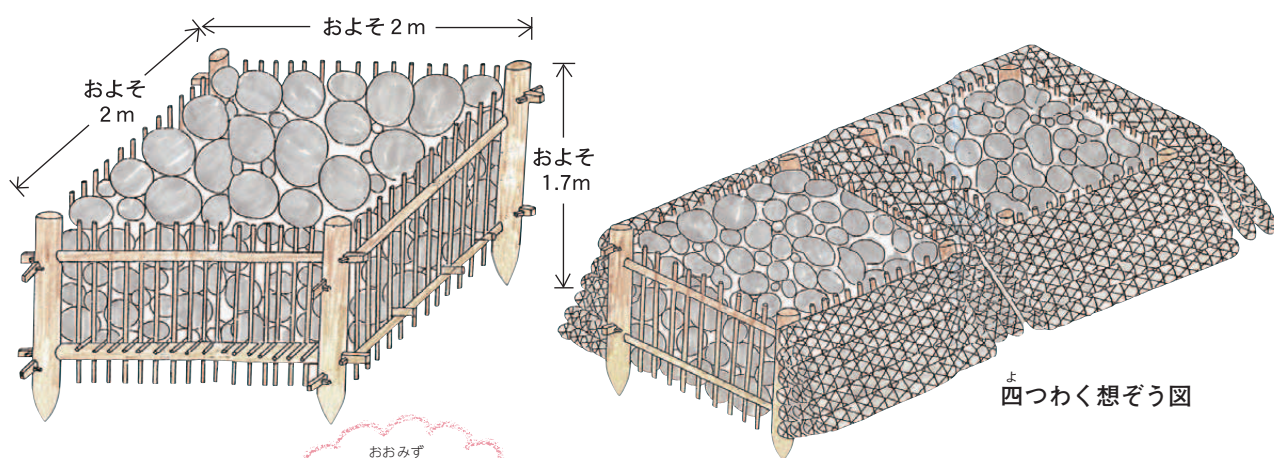
こうじ

工事には、何が使われたでしょう。



使われた道具

くみ



おおみず
大水で
流されなかった
だろうか。

けん



だれがしづめた
のだろう。

くみ

かわ ぞこ
川底に土台の石をそのままならべても、少しの水が出ると流されてしまいます。そこで考え出されたのが「四つわく」でした。まず、まつの木を組み合わせたわくをつくり、その中に石をしきつめます。そしてそれを川底にしづめ、石組みを強くしていきます。すると川の流に流されることのない、じょうぶなせきをつくることができました。

また、水面にはったつなの流され方から、流れの強さをはかり、せきを川下にはりだすやり方も取り入れました。

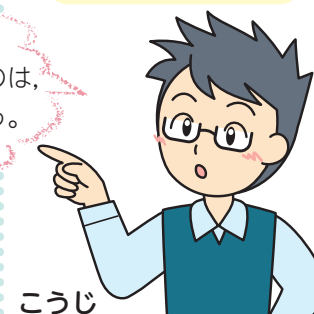


千本づき



そくりょう
測量のようす

足をあげているのは、
どうしてだろう。



こうじ

ちょうちんを
つるしているよ。



なな

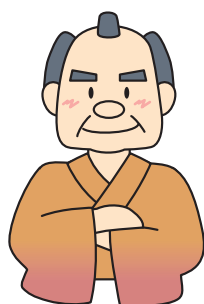
用水路の工事 用水路の工事では、水路の高低をはかりまちがえすると、水が流れません。今のように、測量機械のない時代ですから、夜、竹のさおの一定の高さにちょうちんをつるして、それをならべて土地の高さをはかったといわれています。

また、ほりとった用水路の底から水がもれないように、赤土でつきかためることも大きな工事で、「千本づき」といって、おぜいの人々が棒をもって、用水路の底をつきかためたといわれています。

木やりうた（しごとの調子を合わせるためのうた）にあわせて、長さ2m、直径10cmほどの棒を打ちおろし、同時に足でもふみかためた。



用水路の工事には、どのような苦労やくふうがあったでしょう。



しょうや
●庄屋
今の村長にあたる
仕事をしていた人。

農民の苦勞について
調べましょう。

農業をしながら
4ヶ月も働かされる
なんて、とても大変
だったんでしょうね。



くみ

本山おきて (一部)
お上の命れいにそわかぬこと。
荒地が少しものこらぬように田畑をつくること。
しごとにせいをだせばほうびをやる。
年ぐはのこらず早くおさめること。
とれ高の三分の一の百姓の分も、秋・冬の間は
できるだけ、ぞうすいなどにして食いのばすこと。
めしや、酒にしてたべてしまつたら、つみにつける。
一家や、着物は、どんなにみぐるしくてもよいこと。
春は田がえし、夏は草かり、秋はとり入れ、冬は
麦まきとよくはたらき、家づくりなどはひまに
すること。
このおきてにそむくものがあれば、本人はもちろん、
庄屋もばつする。

のう みる く ろう
農民の苦勞 せきや用水路の大工事には、
まわりの村はもとより、遠くの村からも農
民が集められました。農民は、つくった米
の多くを年ぐにとられたうえ、「本山おき
て」にもあるように、生活の仕方を細かく
取りしまられました。

また、ときには病人の世話まですてて工
事にかりだされたり、1年のうち4か月も
働かされたりしました。

雪のふる日にも、川の中でもっこをかつ
いだり、こおるような水の中に、すっぱだ
かでもぐったりして働かなければなりませ
んでした。

5 工事のつらさを伝えるいろいろな話が残
されています。

雪やこおれ、あられやこおれ、荒瀬の川がとまれやこおれ。

宿毛の平地に水をひく工事のとき、荒瀬の付近は、
かたい岩ばかりでした。また冬にも、水にぬれて毎
日働いていました。農民が、「少し仕事をとめて、休
ませてください。」とお願いしても、兼山は、「荒瀬の
川がこおったら休め。」といて、休ませてくれま
せんでした。そこで、農民たちは、「雪やこおれ、あ
られやこおれ。」とうたったといわれています。

でんねさま (兼山) もひりばり (大小便) はとがめまい。

農民たちの仕事は、とてもきびしいものでした。そ
こで、「少し休ませてください。」とお願いしても、
なかなか休ませてくれませんでした。そのため、農民
は、「便所に行かせてください。」といては、体
を休ませました。しかし、それすらみとめられない
ことがありました。

かわ ぶ
川夫が
はたら
働いている季節は、
いつだろう。



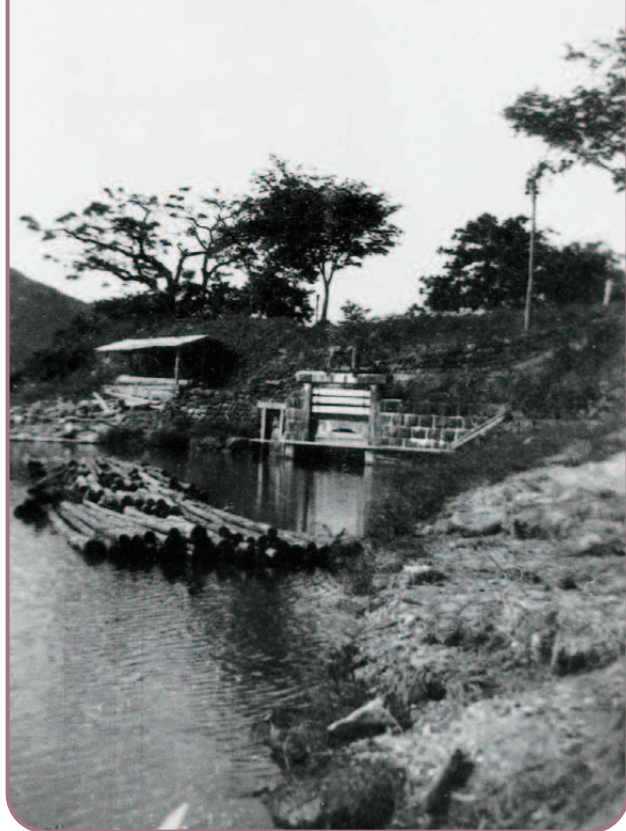
けん

●でんねさま

の なかけんざん
野中兼山のこと。
兼山には、伝右衛
門という、とおり
名があったので、
でんねさまとよば
れた。

●ひりばり

高知県の方言で、
大便をすることを
「くそをひる」、
小便をすることを
「小便をばる」と
いう。それで、あ
わせて「ひりば
り」という。

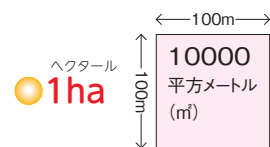


ふないれ しゅすいこう 舟入川取水口 1936(昭和11)年ごろ



なかゆ 中井川取水口 1934(昭和9)年ごろ

用水路ができあがって、村の様子はどうか変わったか調べましょう。



【開かれた用水路と水田】

用水路	開かれた水田	用水路の長さ
うわゆ 上井川	127 (ha)	4700 (m)
なかゆ 中井川	435	9900
ふないれ 舟入川	1109	10500
ぶようじゆ 父養寺井川	42	5000
のいちうゆ 野市上井川	460	4000
しもゆ 野市下井川	200	5000

舟入川は川下の大津川につながれたので、水路の長さの合計は15600m(15.6km)にもなった。

開かれた水田 新しくできた山田ぜきから、父養寺井川、上井川、中井川、舟入川などの用水路が開けられました。

用水路が仕上がると、あれ地を開いて水田にする工事がすすめられました。開かれた水田は、山田ぜきから東に42ha、西に1671haにもなりました。川下のせきの分も合わせると、物部川の水によって、およそ2400haもの水田が開かれたことになります。米のとれ高にすると、およそ24000石(3600t)にもなります。



じこくぶね 舟入川をいく十石舟やいかだ(想ぞう図)

舟入川は、どのように利用されたでしょう。

十石舟は何を運んでいるのだろう。



こうじ

舟入川 新しくつくられた舟入川は、野中兼山が考えていたように、物部川と浦戸湾をつなぐようになりました。はばは、およそ6mから8m、深さは、およそ1.5m、長さは、10.5kmほどでした。

十石舟などが、物部川のおく地でつくられた米、木炭、紙、茶などをのせて、舟入川を下りました。そして、高知の城下で荷物をおろした船は、日用品などのおく地へ運ぶ荷物をつんで、川をさか上りました。

じこくぶね 十石舟
やく りつぼう
約2.8立方メートルの荷物をつむことができる船。

紙
野中兼山の時代に、物部川の上流、今の香北町、物部町のあたりで、紙の原料にするかじの木から、質のよい紙をすくようになった。それを船で高知へ運び、一部は大阪などへも送られた。



やまだ 山田ぜきでいかだを組んでいるところ 1926(大正15)年ごろ



けん

手にしている
長い棒は、何だろう。



なな

また、この舟入川を、材木を組んだいか
だもさかんにくだりました。

後免や大津（高知市）には、船だまりや
船頭のとまる宿屋もできました。

わたしたちは、南国市役所の近くの日吉
神社で石碑を見つけました。これは何だろ
うと思って、先生に質問しました。



後免町誕生の記念碑(日吉神社)

この石碑は、後免町
の誕生を記念してたて
られたものです。

香長平野に新しい水
田が開かれると、商業
の中心になる新しい町
が必要になってきました。

野中兼山は、稲吉新町
（今の後免町）をつく
って、人々がここにう

つり住むことをすすめました。

しかし、なかなかうつってくる人がいませ
んでした。そこで、兼山は、「稲吉新町にう
つってきた人には、土地150坪（およそ500㎡）
をただであげよう。年ぐ米も、御免（ゆるす
こと）にします。夫役も、御免にしよう。み
そも自由につくってよろしい。」というよう
なおふれを出しました。

舟入川の交通も便利なうえに、野中兼山が
いろいろな税を御免にしたので、市も開かれ
るにぎやかな町になりました。

後免町は、どのよう
にして生まれたので
しょう。

記念碑(石碑)の
うらにも文が
書かれているよ。



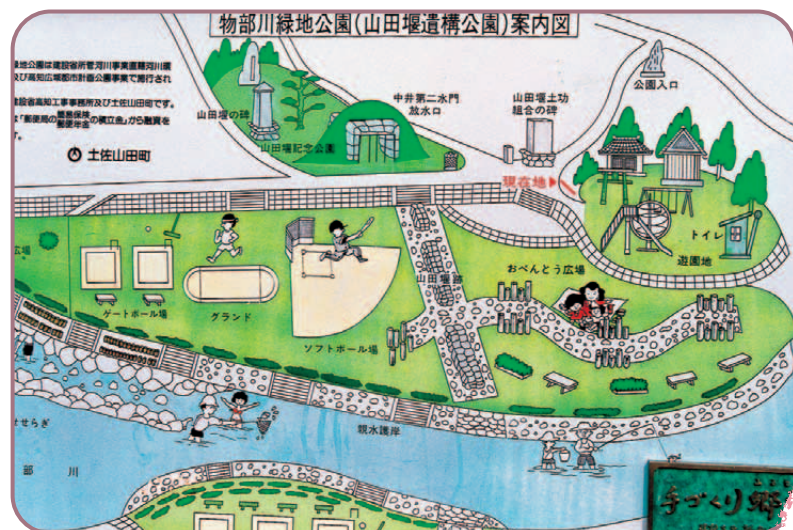
こうじ

石碑に書かれている
文を読んでみよう。

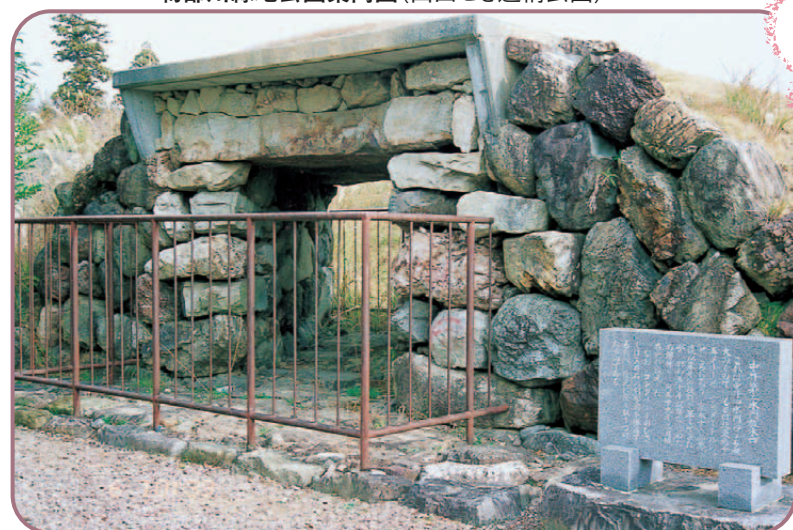


1坪
たたみ2枚分。

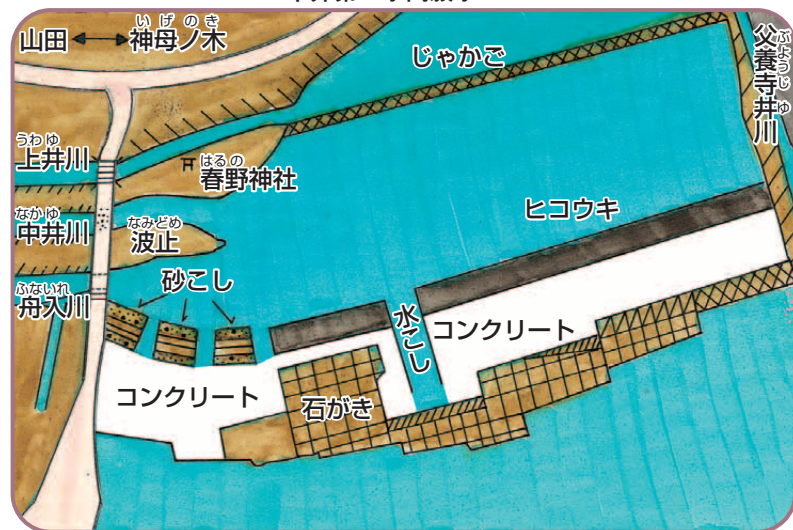
夫役
藩のために働かな
ければならない仕
事のこと。



物部川緑地公園案内図(山田ぜき遺構公園)



中井第二水門放水口



1948(昭和23)年~1954(昭和29)年ごろの山田ぜき

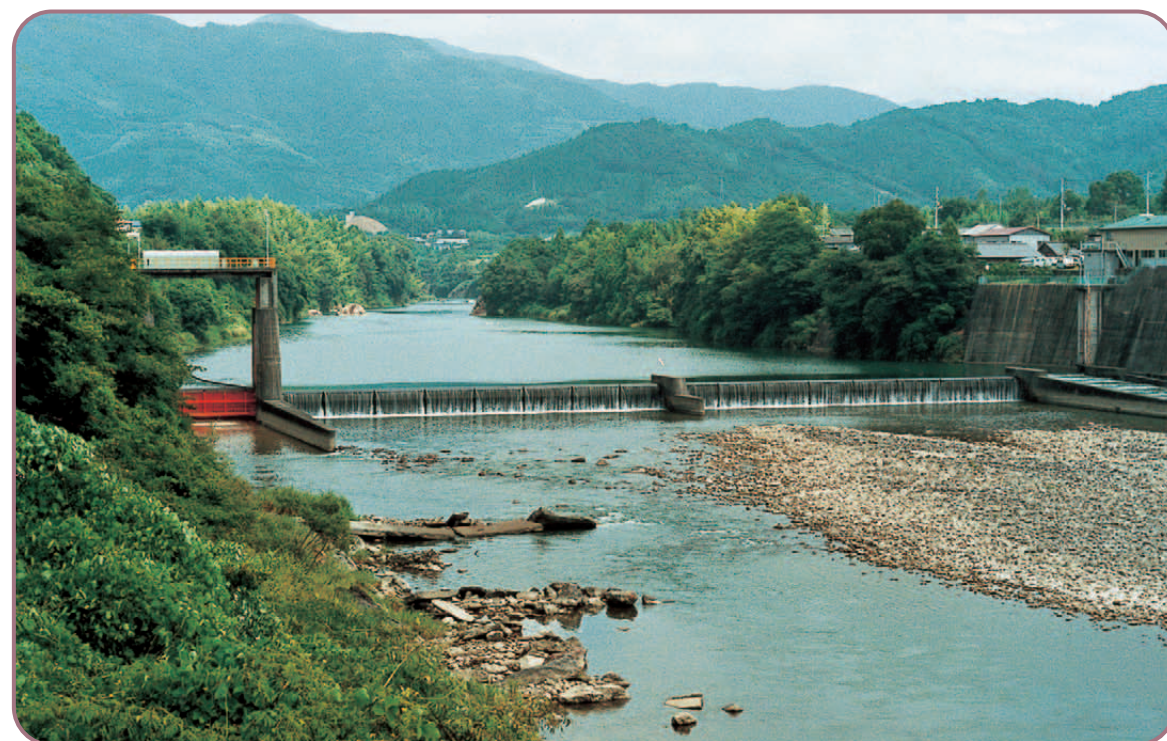


山田ぜきは
1639年につくって以来、
その役わりをはたして
きましたが、1975(昭和50)年、
ていぼう修理のためとりこわし
ました。そして1984(昭和59)年、
山田ぜき記念公園内に、
もとあったように
つくりもどしました。



先生

じゃかごというのは
丸い筒形の金あみに
石をつめたもの、
ヒコウキというのは
セメント柱に松の木をかけ、
これにシダをたてかけ、
さらにそれに砂を
かけたもの
をいうんだよ。



物部川合同ぜき(香美市土佐山田町神母ノ木)



山田分水樋門(香美市土佐山田町平田)

物部川合同ぜきよりひかれた用水は、ここで、上井川・中井川・舟入川にわかれている。



● 開いた土地
 錨 開いた港

野中兼山の開発した地いき

野中兼山の開発した地いきについて調べましょう。

八田ぜきについて調べてみよう。



くみ

野中兼山が開発した地いきは、このほか、高知県のあちこちに見られます。

兼山は、港をつくったり、山林を育てる仕事にも力を入れたりしました。



八田ぜき (いの町)

港について調べてみよう。



けん



野中兼山の銅像(本山町)と年表

年(せいき)	主なできごと
1638	森(土佐町)に用水路をつくった。
1639	中井川が完成した。
	山田ぜきの工事をはじめた。
1643	本山掟をさだめた。
	鏡野の開たくをはじめた。
1644	野市上井川が完成した。
1645	上井川が完成した。
1648	八田ぜきの工事をはじめた。
1649	野市村ができた。
1652	手結港の工事をはじめた。
	後免町と新川町を開いた。
1653	弘岡井筋(春野町)、八田ぜき(いの町)が完成した。
1654	本山に用水路をつくった。
1655	父養寺井川、手結港が完成した。
1656	鎌田井筋が完成した。
1659	鎌田ぜき(いの町)が完成した。
	中筋川(四万十市)を改修した。
1660	舟入川が完成した。
1661	津呂港が完成した。
1663	兼山がなくなった。
1664	山田ぜき、野市下井川が完成した。

兼山の考える漁業

江戸にいた野中兼山から、「はまぐりをたくさんおみやげにもって帰る」と連らくが入った。そこで、みんなが楽しみにして、浦戸の港にでむかえに集まった。すると兼山は、もってきたはまぐりをみんな海にばらまいてしまった。「もったいない。どうして、ばらまいたのか。」とたずねると、兼山はからからと笑って、「こうしておけば、いつでもはまぐりをとって食べることができる。また、みんなの子孫も食べることができるし、漁師たちもそれをとって生計のたしにすることができよう。」と答えた。それをきいたみんなは、兼山の深い考えに感心した。それ以来、浦戸では、はまぐりがとれるようになったという。(昭和の初め頃まではまぐりがとれていたそうだが、現在はとれていない。)

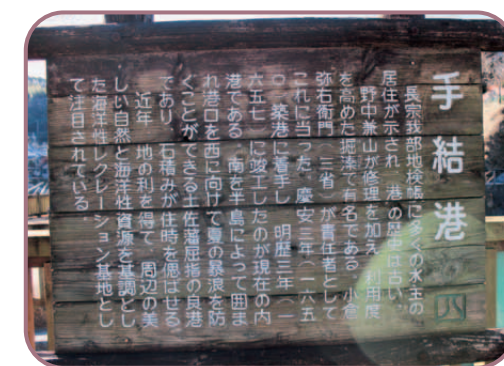
野中兼山についてこんな話があるんだね。



こうじ



手結港のようす



げんざい
現在の水田や用水路
のようすについて調
べましょう。



こうじ

昔の人が作った
用水路の水は、今も
米作りに利用されて
いるのではないかな。

水田や用水路は今どうなっているのかな
こうじさんたちは、野中兼山が開発した
水田や用水路が、今、どのように利用され
ているのかについて、知りた
くなりました。



かわひ
舟入川の川干のようす



かわひ 川干

毎年2月末から3
月にかけて1～2
週間ほど、川の水
を止める。その間
に用水路のゴミや
川底のどろなどを
取って、そうじを
する。



のう か
農家のおじさん

せんぞ だいたい
先祖代々田んぼを受け継いで、ずっとこの
ち いき
地域でお米を作っています。米作りには水が
か 欠かせないので、地域の人が協力して、川干
や草かりをして用水路を大切にしています。
さい きん
しかし、最近では米作りをついでくれる人がへ
ってきていますし、ち いき
地域の人のつながりも少
なくなってきました。



くみ

3年生が総合の
学習で用水路の
生き物を調べて
いたよ。

エビや魚など、
しゅるい
10種類以上の生き物が
見つかったみたいだよ。

ち いき
地域の人は今も用水路を大切にしてい
るんだね。川干は地域の人の交流の場にも
なっていることがわかったよ。
それに用水路にはいろんな生き物がいて、
子どもたちが自然とふれ合える
大切な場所でもあるんだね。



なな

おおしの
でも、大篠小学校の
たてもの
まわりは建物が
たくさんで、水田は
あまり見られないね。

88ページに
土地の使われ方について
書いてありましたね。
ふりかえってみましょう。



先生

南国市では「緑とまち 笑顔あふれる 南国市」を合言葉に、住み
やすいまちづくりを進めています。南国市の豊かな自然をのこしな
がら、交通の便のよい市の中心部(市役所のあたり)に図書館や地域
交流センターなどのいろいろな施設をまとめて置くことで、コンパク
トで住みやすい町になるように計画しています。そのため、市の中心
部には家がふえてきています。



市役所の人の話



家を建てた人

以前は水田だったところに家を建て、おおそね
つ なみ しん すい
ここは津波の浸水の心配もなく、周りにお店やいろいろな施設があ
るので、便利に生活ができてうれしいです。高知市までも車や電車で
行きやすいので、仕事に行くのにもとても助かっています。

野中兼山が開発した水田は
これからもへっていくのだろうか。
用水路を大切にする人も
へっていくのかな。



けん